

「H 17 年度 高度乾燥技術普及指導促進事業」に対する技術支援
—乾燥技術研修会の開催—

河崎弥生・野上英孝

1. はじめに

住宅の品質確保の促進等に関する法律（品確法）の施行に伴い、住宅部材に対する品質の向上が求められる状況にある。このため、木造住宅の設計者や施工業者は、寸法安定性が高く施工後に不具合が生じることの無い高品質な乾燥材を入手することを希望している。これらの状況に対応するため、乾燥材の生産者である製材業界は、さらなる技術的研鑽をはかり、これまで以上に高品質化を進める必要がある。

乾燥材の生産体制を整備するためには、生産量と品質の確保に努め、同時に低コスト化を図る視点が必要とされる。これまでの乾燥材生産は、主に納材先等の要求により、生産量の確保と低コスト化を図ることに主眼を置かざるを得ない面があり、高品質化については必ずしも十分な配慮がでなかつた企業もあるように思われる。この様な状況を勘案すると、今後、建築業界がさらに高品質な乾燥材を要求する状況になれば、これらの企業は新たな技術的対応を迫られるようになるであろう。

（社）岡山県木材組会連合会は、県内の乾燥材生産業者が、今後、高品質な乾燥材生産を行うための基礎作りとして、様々な活動を行っている。平成 17 年度においては、木材乾燥に関する最新技術や新たな技術革新のための知識を習得することを目的として、平成 16 年度に引き続き「高度乾燥技術普及指導促進事業」を実施した。

当センターは、この事業を支援するために、研修会場の提供と講師の派遣を行い、技術的な支援を行った。

2. 技術支援の内容

1) 支援の対象

（社）岡山県木材組合連合会

2) 支援の内容

「高度乾燥技術普及指導促進事業」に係わる高度乾燥技術研修会の開催を支援した。

①日時：平成 18 年 2 月 21 日 13:30 ～ 16:00

②場所：木材加工技術センター 研修室

③講師：専門研究員 河崎弥生
技 師 野上英孝

3. 研修会の参加者と内容

1) 参加者

製材業、協同組合、製品市場など 22 の事業体から、42 名の参加があった。参加者は、経営者、役員、現場技術者など多様であり、1 事業体から 3 ～ 4 名の複数の参加も見られた。

参加した事業体は、すでに乾燥材の生産や取り扱いを行っている主要な企業等であり、高品質な乾燥材の生産に関する知識の習得を目的として研修会に参加していた。また、今回は乾燥技術と併せて、フローリング材の水分管理についても話題提供したため、フローリングを製造している企業からの参加も見られた。

2) 研修の項目

(a) 複合乾燥法の開発の現状

①複合乾燥法の特徴

②実験状況の概略の紹介

- ・中温域でのドラインセット
- ・熱風減圧乾燥

(b) 木製品の水分管理技術

①床暖房用フローリング材の挙動と仕上げ含水率

②床暖房用フローリング材の製造時のポイント

3) 研修時の配布資料

①複合乾燥の特徴

②複合乾燥の開発の状況

③オープンラボの利用案内

④木製品の水分管理技術

⑤木材乾燥読本

4) 研修方法

- ①研修項目を、パワーポイントによる資料によって、順次説明した。
- ②複合乾燥による中温セット法の開発の現状を、実験結果を示しながら説明した。
- ③新たな乾燥法の開発に必要な基礎的知識の概略を説明した。
- ④床暖房用フローリング材に関する水分管理の基礎知識を説明した。
- ⑤床暖房用フローリング材の製造と施工上の留意点について説明した。
- ⑥今後の研究開発の方向について、参加者とともに討論を行った。

5) 研修状況

今回は、実験室における説明は行わなかったが、乾燥後の仕上がり状態を現物（短尺材）で示した。このことにより、参加者が実際に自社で取り扱っている乾燥材との比較が可能となり、理解が進んだようであった。その結果、複合乾燥がなされた試験体は、自社製品と比較して、材色が良好で、材面割れや内部割れの程度が軽減されているという意見が、比較的多く聞かれた。しかし、一方では乾燥コストの増加に対する懸念も出され、総合的な判断が必要であるという議論が展開された。

参加者は、全体的に熱心であり、全体討論の後にも個別の質疑応答を行うなど、有意義な研修会となった。乾燥材生産者が、共通の場で乾燥材の品質について討論する機会を持てたことは、今後の技術開発に大いに役に立つものと思われる。

また、今回は床暖房用のフローリング材に関する知見を説明したが、フローリングを製造している企業からは、貴重なデータであるとの意見が聞かれ、今後の加工に活用されることが期待される。

当センターの高度化支援事業は、木材関連業界の加工技術の高度化を支援することを目的として設けられた事業であるが、本研修会はこの趣旨に見合う内容となり、有意義なものとなった。

4. 今後の方向

平成 18 年度においても、(社)岡山県木材組合連合会において引き続き「高度乾燥技術普及指導促進事業」が実施される予定である。当センターとしては、平成 16 年度および平成 17 年度の討議を踏まえ、さらに技術的支援を継続する予定である。